広報ながれやま

平成29年 1/1 特集号

毎月1日・11日・21日発行 ●発行／流山市 ●編集／秘書広報課

〒270-0192 千葉県流山市平和台1-1-1 ☎04-7158-1111(代表) URL http://www.city.nagareyama.chiba.jp/

流山市 市制施行 50周年記念特集号

50th NAGAREYAMA

本日、流山市は50歳になりました！

昭和42年(1967年)1月1日に、千葉県20番目の市として産声を上げた流山市。本日、50回目の記念日を迎えました。今号では、多くの先人たちの努力によって築き上げられてきた半世紀の軌跡と、流山に残る歴史などを紹介します。

（昭和45年7月）

東武アーバンパークライン(野田線)の運河駅。平成26年に東口が完成し、駅舎も大きく変わった

（平成26年3月）

（昭和45年頃）

県道松戸野田線の江戸川台入口付近。周辺に店舗はできたが、道路のカーブに当時の面影が残る

（平成28年12月）

（昭和36年頃）

流山根郷(現在の流山2丁目)の旧県道。流山町役場のあった場所は現在、流山福祉会館となっている

（平成28年12月）

（昭和42年）

松ケ丘商店街。魚屋やパン屋などが並んでいる。現在は、店舗が様変わりし、道路もきれいに舗装されている

（平成28年12月）

節目の年、そして次の50年へのスタート

流山市長
井崎 義治

流山市は、昭和42年1月1日に千葉県20番目の市として誕生しました。当時約4万3千人であった人口は、平成17年8月のつくばエクスプレス開業以降増加を続け、昨年12月3日に18万人を超えました。主要駅前でのイベント開催と、歴史ある街並みを活かした流山本町界隈のツーリズムにより交流人口も大きく増え、賑わいが生まれています。今日の本市の姿があるのは、それぞれの時代において、将来の流山の発展のために尽くされた先人や先輩方、市民の皆様のたゆまぬご努力があったからこそと深く敬意を表します。

今年は大きな節目の年であるとともに、次の50年に向けて新たなスタートの年でもあります。未来の流山市を「住み続ける価値の高い街」とするため、職員一丸となって取り組んでまいります。

流山市市制施行50周年によせて

流山市議会議長
海老原 功一

流山市は昭和42年に市制を施行してから50年の節目を迎えました。この間、社会、経済は大きな変遷をたどり、首都直結のつくばエクスプレスを核としたまちづくりで市勢は発展の一途をたどり、人口も昨年12月初旬には18万人を超えました。これもひとえに、市民の皆様が流山市に愛情と誇りをもって、積極的にまちづくりに参加いただいた賜物であります。

市議会では、市民の皆様のご期待に応え、市民一人ひとりが快適に末永く過ごせるまちづくりを目指して、これからも全力で議論を重ねてまいります。

結びに当たり、市民の皆様のますますのご健勝とご多幸を心からお祈りして、ご挨拶とします。

流山市誕生の日。田中市長（当時）が「流山市役所」の庁舎プレートを除幕（昭和42年）

市民まつり開始当初は、姉妹都市・相馬市の歴史を再現した武者行列も（昭和53年）

昭和63年から建設が進められていた常磐自動車道流山インターチェンジがオープン（平成4年）

流山市50年のあゆみ

1960年代

昭和42年　市制施行。県下20番目の市として誕生（人口4万2649人）

昭和44年　人口が5万人を突破。文化会館がオープン

1970年代

昭和46年　市の木「つげ」、市の花「つつじ」に決定

昭和47年　北部公民館がオープン

昭和48年　国鉄（現・JR）武蔵野線が開通。南流山駅が開駅

昭和50年　保健センター（現・シルバー人材センターの場所）、東部公民館がオープン

昭和51年　市民総合体育館（平成28年に建て替え）がオープン
商工会青年部により昭和20年代まで行われていた「とうろう流し」を二十数年ぶりに復活させ、併せて初の花火大会を開催

昭和52年　市制施行10周年。市民憲章を制定。福島県相馬市と姉妹都市に

昭和53年　図書館・郷土資料館（現・博物館）がオープン。市民まつりを初開催

昭和54年　人口が10万人を突破。初石公民館がオープン

昭和56年　南流山センターがオープン

昭和57年　流山市民の歌を制作（作詞：岩谷時子、作曲：いずみたく）

昭和58年　県立流山青年の家（現・生涯学習センター）がオープン

昭和59年　常磐新線（現・つくばエクスプレス）誘致署名運動開始

昭和60年　常磐自動車道開通。商工会館がオープン
★常磐新線（現・つくばエクスプレス）の市内通過が決定

1980年代

昭和61年　流山警察署が開署

昭和62年　市制施行20周年。平和都市宣言
市役所新庁舎（現・第1庁舎）、新保健センターが落成

昭和63年　サロンコンサートを開始（平成28年12月で、344回開催）

平成2年　流山勤労者総合福祉センター（現・コミュニティプラザ）がオープン

平成3年　流山工業団地が完成。市総合運動公園で流山トーテムポール国際大会を開催
市民ふれあいセンター「相馬ユートピア」がオープン。姉妹都市交流の一環として、平成15年度まで市内中学校の林間学園として活用（平成20年3月に閉館。現在は民間の福祉施設）

1990年代

平成4年　常磐自動車道流山インターチェンジがオープン

「都心から一番近い森のまち」へのターニングポイント
つくばエクスプレス（TX）を流山に呼び込む

流山市と秋葉原を最速20分でつなぐTX。市民の皆さんにとって欠かせない鉄道ですが、市内3駅を通るルートが決定されるまでには、誘致に関わった方々の並々ならぬ努力があったのです。

TX開通の始まりは、常磐線の恒常的な混雑緩和のため、新しい鉄道の必要性が叫ばれ始めた昭和50年代後半。千葉県が考えた6ルート案のうち、本市を通る案は1つのみ。本市の新たなまちづくりにとって、東京都心との直結が必要不可欠との考えから、全市を挙げて誘致活動を行いました。

当時の秋元市長はじめ関係者のご尽力により、昭和60年7月の運輸政策審議会の答申では、常磐新線（現・つくばエクスプレス）は、都市交通対策上の喫緊の課題と位置付けられ、そのルートとして本市通過が正式決定。平成元年には、鉄道新線の整備により住宅地が大量に供給されることが見込まれる地域において、宅地開発と鉄道整備を一体的に推進するために必要な特別措置を認める法律いわゆる「宅鉄法」が制定。市では、流山の未来を大きく左右する交通プロジェクトとして、その建設促進に力を尽くしてきました。

平成3年3月に事業主体となる首都圏新都市鉄道株式会社が設立され、市内では、平成10年5月に建設工事が着工。地権者の皆さんのご協力、関係機関のご努力により、平成17年8月、待望のつくばエクスプレス開業を迎えたのでした。

市民まつり会場でも誘致を呼びかける署名活動が行われる

待望のつくばエクスプレスが開業。右から秋元元市長、眉山前市長、井崎市長、中村議長（平成17年）

県内初の送迎保育ステーションが流山おおたかの森駅前に（平成19年）

キッコーマン アリーナの竣工式典で、南部中の吹奏楽部がマーチングを披露（平成28年）

1990年代

- 平成7年　一茶双樹記念館がオープン
- 平成8年　森の図書館、ケアセンターがオープン
- 平成9年　市制施行30周年。長野県信濃町と姉妹都市に
- 平成11年　人口が15万人を突破

2000年代

- 平成13年　杜のアトリエ黎明がオープン
- 平成15年　リサイクルプラザがオープン
- 平成17年　つくばエクスプレス（TX）が開業し、南流山駅、流山セントラルパーク駅、流山おおたかの森駅の3駅が開駅。ぐりーんバスがスタート
- 平成18年　流山グリーンチェーン戦略がスタート
- 平成19年　市制施行40周年。健康都市宣言　流山おおたかの森駅前に県内初の送迎保育ステーションがオープン
- 平成20年　南流山駅前に送迎保育ステーションがオープン
- 平成21年　人口が16万人を突破。「自治基本条例」「議会基本条例」が同時施行
- 平成22年　利根運河が通水120年。皇太子殿下がオランダのアレキサンダー皇太子殿下（現在は国王）とともに、初めて利根運河をご視察　市役所新第2庁舎、森のまちエコセンター、おおたかの森スポーツフィールドがオープン
- 平成23年　東日本大震災が発生。甚大な被害の姉妹都市・福島県相馬市に支援物資を輸送するなどいち早く対応。福島第一原子力発電所事故の影響が市内にも

2010年代

- 平成24年　市制施行45周年。石川県能登町と姉妹都市に　全国で初めて国の合意を得た「流山市除染実施計画」を策定し、放射性物質の除染を開始。学校や保育所など、子どもが多く利用する施設の除染を8月末までに、公園と住宅地の除染を平成25年3月末までに完了
- 平成25年　高齢者福祉センター森の倶楽部がオープン
- 平成26年　人口が17万人を突破。「流山白味淋（みりん）200年祭」をキッコーマン㈱と共催
- 平成27年　市内初の小中併設校「おおたかの森小・中学校」が開校。併設のこども図書館・おおたかの森センターもオープン　新市民総合体育館のネーミングライツパートナーにキッコーマン㈱を選定。愛称は「キッコーマン アリーナ」に決定
- 平成28年　人口が18万人を突破　流鉄流山線が開業100周年を迎え、記念祭を開催　キッコーマン アリーナがオープン　日本画家・後藤純男氏を本市初の名誉市民に（後藤氏は同年10月18日に逝去）　市民の寺村美穂さんが競泳日本代表選手としてリオ五輪に出場
- 平成29年　市制施行50周年

国土交通省職員から「ムルデルの碑」の説明をお受けになる皇太子殿下（左）とオランダのアレキサンダー皇太子殿下（現在は国王、左から2人目）（平成22年）

流山市指定記念物「小林一茶寄寓（ぐう）の地」に一茶双樹記念館がオープン（平成7年）

流山白味淋200年祭には約1万人の方が市内外から訪れた（平成26年）

市内初の併設校・おおたかの森小・中学校。一般の方も利用できる「こども図書館」と「おおたかの森センター」を併設（平成27年）

市民初のオリンピック選手・寺村美穂さんが出場決定を報告（平成28年）

流鉄流山線開業100周年記念祭。子どもたちが流鉄との綱引きに奮闘（平成28年）

重ねた時代の分だけ歴史が紡がれる―
流山に残る歴史の浪漫

ここ流山にも、地名の由来や地域独自の伝説、歴史が多く残っています。それだけではなく、歴史上の人物が訪れていたり、調味料の発祥の地であったりと、しっかりと日本の歴史の一部に流山が刻まれているのを感じることができます。その全てを紹介することはできませんが、流山の歴史は、博物館での常設展や、図書館に所蔵されている市史などの書籍でも学ぶことができます。そしてぜひ、現地を訪れ、これまでの歴史に思いを馳せてみませんか。

どうして「流山」？

「洪水で上州（現在の群馬県）の赤城山から崩れた土が流れ着いた」や「山が流れてきたから流山」の地名が付いたという伝説があります。その「流れてきた山」とされているのが流山本町にある赤城神社です。別の説では、「赤城山のお札が流れ着いたから」とも言われています。

また、赤城神社では、長さ約7メートルの大縄を3本撚り合わせ、1年間保存塔に掲げる、市指定無形民俗文化財の「大しめ縄行事」(=**写真**)が毎年10月に行われます。

古くから度々合戦の場となった前ケ崎城

流山運転免許センター近くの、木々が生い茂った山のような場所に前ケ崎城跡があります。現在、主郭に当たる台地の突端部を公園として整備し、保存しています。

前ケ崎城の歴史は古く、室町幕府8代将軍・足利義政の時に関東地方で30年近く続いた内乱「享徳の乱」(1455～1483年)にその名を見ることができます。享徳の乱とは、幕府によって置かれた関東の統治機構・鎌倉府のトップ(鎌倉公方)足利成氏が、関東管領(鎌倉公方を補佐する役職)の上杉憲忠を暗殺したことに端を発するものです。乱の後期には、上杉家の中で家臣による反乱も起き、流山市域周辺では度々、公方側の千葉孝胤と、上杉氏側の太田道灌が死闘を繰り広げました。その際、孝胤にこの城は落城され、太田六郎(道灌の弟?)と戸張彦次郎という武士が戦死しています。

戦国時代に入ると、東葛地域で最大勢力を持つ小金城主・高城氏が前ケ崎城を支配していたと考えられています。城主は、高城氏家臣・田島刑部少輔とする説や花野井氏とする説がありますが、詳細は分かっていません。

その後、豊臣秀吉が北条氏の小田原城を攻めた際に、北条方だった高城氏の小金城を攻め、降伏・開城させました。併せて前ケ崎城、名都借城、花輪城、深井城も開城したと考えられています。

歴史がつなぐ距離を越えた絆・姉妹都市

福島県相馬市

相馬市は、福島県の浜通り北部に位置し、「相馬野馬追」や相馬民謡が有名です。資源を生かした農業、水産業、観光が盛んなほか、相馬中核工業団地を造成し、企業の立地促進を進めています。

【流山市とのつながり】

下総国相馬郡（現在の千葉県北西部）は、相馬氏が支配していました。相馬師国の養子となった、下総国の豪族・千葉常胤の次男・師常は、父・常胤とともに奥州合戦（源頼朝率いる鎌倉軍と奥州藤原氏の戦い）に従軍し、その功により奥州行方郡（現在の南相馬市の辺り）を与えられました。その後、師常の子孫である相馬重胤が奥州に家臣を率いて移り住み、この地方を治めたことを縁とし、昭和30年代頃から市民間の交流が盛んに行われ、友好親善都市の関係を経て、姉妹都市の盟約を結びました。

勇壮な武者行列の「相馬野馬追」は国の重要無形民俗文化財

長野県信濃町

信濃町は、長野県の北端に位置し、北信五岳(妙高山、黒姫山、飯縄山、戸隠山、斑尾山)に囲まれ、妙高戸隠連山国立公園の一部として風光明媚な高原盆地帯にあります。酪農のほか農業も盛んで、そばやブルーベリー、フルーツのように甘いトウモロコシが特産品です。

【流山市とのつながり】

信濃町で誕生した俳人・小林一茶は、全国を俳句修行で歴遊し、流山には50回以上も訪れ、多くの俳句を残しました。足繁く流山を訪れた背景には、市内でみりん醸造を営む五代目秋元三左衛門（俳号=双樹）の存在がありました。俳句を通じて当地で一茶と交流を持ち、自宅に逗留させるなど手厚くもてなし、一茶もこの地を第二のふるさとと慕っていたようです。本市に「一茶双樹記念館」が開館したことをきっかけに交流が盛んになり、姉妹都市の盟約を結びました。

一茶を慕う人たちによって建てられた俳諧寺（一茶おもかげ堂）

石川県能登町

能登町は、石川県・能登半島の北部に位置し、九十九湾などの景勝地を有する海岸があります。海産物が有名なのはもちろん、日本四大杜氏に数えられる能登杜氏の酒は伝統文化であり、特産品でもあります。

【流山市とのつながり】

昭和初期に、白みりん発祥の地として醸造業がさかんであった旧流山町に、能登杜氏をはじめとした能登町民（旧内浦町民）が数多く移り住むようになりました。その縁により昭和60年頃から交流が活発に行われるようになり、姉妹都市の盟約を結びました。また、夏休みには、流山の小学生が能登町を訪れ、雄大な自然を能登の小学生とともに体験するツアーが行われています。

石川県無形民俗文化財の「あばれ祭り」。高さ7メートルの奉燈「キリコ」が火の粉の中を乱舞するのは圧巻

かつて水運の重要なルートを担った利根運河

自然あふれる癒やしの場として親しまれている利根運河。平成18年度には土木学会が選奨土木遺産に、平成19年には経済産業省が近代化産業遺産に認定した日本初の西洋式運河です。

今から126年前、明治時代に複雑なルートで東京まで運ばれていた東北地方の物資を、安全で速く運べるようにと計画されたことが利根運河開削の始まりでした。開削に当たり、優秀な土木技師として白羽の矢が立ったのは、オランダ人技師のローウェンホルスト・ムルデル。彼の優れた設計・監督により、たった2年間という短い工期で開通に至りました。利根運河は最盛期を経て、次第に輸送方法が陸路中心になった影響などにより、昭和16年(1941年)にその役目を終えることとなります。

その後、利根運河通水100周年を迎える時期に、市民の皆さんの中で利根運河を蘇らせたいという機運が高まり、市と国は運河水辺公園を整備し、今日の姿へと生まれ変わりました。

現在では、毎月開催されている「うんがいい! 朝市」のほか、「桜まつり」や「利根運河シアターナイト」などの季節のイベントが行われ、また、桜や曼珠沙華が楽しめる名所としても愛されています。

新選組局長・近藤勇と副長・土方歳三 今生の別れの地

小説・漫画・テレビドラマなどで多数取り上げられ、ファンも多い「新選組」。江戸末期、動乱の時代に京都の治安維持に当たったその活躍はあまりにも有名です。そのリーダーである局長・近藤勇と、近藤を支え続けた副長・土方歳三。幼いころから行動を共にし、新選組結成前からの戦友の2人の今生の別れとなったのが、ここ流山なのです。

幕末の時代、新政府軍と幕府軍の戦いは熾烈を極め、幕府軍の一大戦力として奮闘していた新選組でしたが、形勢が不利になり敗走を余儀なくされます。流山の地にたどりつき、新政府軍に囲まれた近藤は投降を決意。最後まで投降を思いとどまるよう説得を試みた土方でしたが、近藤の意志を崩せず、隊士たちを率いて会津へと逃走しました。

当時、近藤が陣を敷いたといわれているのが、常与寺の裏手。現在は「近藤勇陣屋跡」(=**写真**)として整備され、流山が平成16年に放送されたNHK大河ドラマ「新選組!」のロケ地となったこともあり、市内外の方が多く訪れる場所となっています。

歴史や文化財などが多く残る 流山本町界隈

流山本町には、国登録有形文化財(**注1**)や、市の「流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金」を活用し、古くから残る建築物などを活用した店舗(**注2**)、100年間変わらず市民の足として走り続ける全長5.7キロの単線・流鉄流山線などがあります。夕暮れ時には、84基の切り絵行灯が幻想的な街並みを演出し、まるでタイムスリップしたかのような雰囲気を味わうことができます(=**写真**)。

また、「流山の富士山」といわれ、県内トップクラスの規模を誇る富士塚がある浅間神社や、明治期に流山が県庁所在地だった頃の教員養成機関「印旛官員共立学舎」が置かれた常与寺などがあります。

注1:呉服新川屋店舗、寺田園旧店舗(万華鏡ギャラリー・見世蔵)、笹屋土蔵(カフェ+ギャラリー灯環)、清水屋本店店舗兼主屋

注2:レストラン・丁字屋 栄、カフェ+ギャラリー灯環、流山あかり館・彩、管理栄養士のビストロ・EIZEN、喫茶店・tronc

※その他の名所など詳細は、市ホームページ(ID 30192)をご覧ください。

和食には欠かせない存在 「白みりん」誕生の地

料理にうま味や照り・つやを与える調味料として、家庭の台所にある「みりん」。今では、白く透き通った色が一般的ですが、約200年前までは赤褐色の「赤みりん」がほとんどでした。文化11年(1814年)に、流山で醸造業を営んでいた、二代目堀切紋次郎が「万上味淋」を、同じく醸造業の五代目秋元三左衛門が「天晴味淋」を開発し、透明なやまぶき色をした「白みりん」を売り出しました。この2つの白みりんは、流山の2大ブランドとしてその名をとどろかせ、宮中に献上されるまでになりました。

しかし、醸造業が競争の時代に入った大正中期には、「万上味淋」の堀切家は、現在のキッコーマン株式会社となる野田醤油株式会社の設立に参加し、「天晴味淋」の秋元家は単独経営の道を進みました。「万上味淋」は、キッコーマン株式会社が分社化した流山キッコーマン株式会社で「マンジョウ本みりん」として現代に味を伝え続け、「天晴味淋」は紆余曲折を経たのち一時的にその名は使われていませんでしたが、平成27年1月から、三菱商事グループの食品素材メーカー・MCフードスペシャリティーズ株式会社によって「天晴本みりん」として復活しました。

大正以前のポスター(いずれも流山市立博物館所蔵)

流山人（ながれやまびと）る市民のビュー

は、若手のホープ、自然環境、産業、から、4人の方にお話を伺いました。

流山市、そして日本の競泳界を牽引する期待の星

リオ五輪競泳日本代表 寺村 美穂さん（セントラルスポーツ所属）

セントラルスポーツ提供

リオ五輪出場決定の報告に来庁

●3年後の東京五輪ではさらなる輝きを流山の皆さんに

大会や合宿などで全国や海外を飛び回ることが多いですが、やはり流山に帰ってくると、家族や友達に迎えられ、ほっとした気持ちになります。友人たちと話をするとそれぞれの道で頑張っている話が聞けるのが楽しいですし、自分もまた頑張ろう! という気持ちになれます。

昨年は、初めてオリンピックの舞台に立ち、たくさんの方々の応援に力をもらいました。予選はまずまずのタイムで通過しましたが、準決勝では0.16秒差で決勝進出を逃してしまい、とても悔しい思いをしました。いまは、この悔しさをバネにして、3年後の東京オリンピックに向けて、強化に努めています。昨年の10月に出場した第58回日本選手権（25m）・競泳FINAワールドカップ東京大会では、もともと得意種目だった平泳ぎで、日本新記録を出すことができました。

これからも世界の第一線で泳ぎ続けるために、努力を怠らず1歩ずつ前に進んでいきたいと思います。そして次の東京オリンピックでは、出場の経験のある個人メドレーはもちろん、平泳ぎでも代表の座を勝ち取れるように頑張ります。

自分が頑張ることで、その姿を見た流山の方や子どもたちに「自分と同じところで生まれ育った人が世界を舞台に戦っている」と感じてもらえたら嬉しいです。

プロフィール

姉の影響で3歳から水泳を始め、中学・高校生の時には、インターハイ優勝など数々の好成績を収める。右ひざの2度の手術を乗り越え、200m個人メドレーでリオ五輪に出場するも、わずか0.16秒差で決勝進出を逃す。昨年10月の競泳ワールドカップでは、100m平泳ぎで3位（日本新記録）、200m個人メドレーでは2位の成績。

市内で50年、変わらず産業の第一線で活躍

株式会社マルタカ　代表取締役会長　髙橋 啓治さん

●常に変わる準備をしていれば、訪れたチャンスは逃がさない

創業したのは昭和41年。「流山市」になる1年前のことです。都内で働いていた時に仕事を教えてくれた先輩が流山で起業し、その会社に呼ばれたのがこの土地との縁の始まりです。先輩の会社で3年間働き、仕事や経営を学び、のれん分けのような形で独立しました。

自社・(株)マルタカの前で

当時は株式会社ではなく、髙橋加工所という社名で、場所も市野谷にありました。当初は、輸出用のスリッパを入れる外袋を塩化ビニールで加工して作っていました。しかし、取引先の方から、「塩化ビニールの加工品だけでは、いずれ事業が成り立たなくなる」というアドバイスをいただき、少しずつ業態を変えていくことにしました。取引先は都内が多かったですが、当時は「流山」と言ってもどこか分かってもらえず、千葉県内でも知名度が低かったため、「東京の流山から来ました」と冗談をよく言ったものです。

昭和60年、ちょうどポリエチレンの袋のパッケージ印刷を始めた頃、「流山工業団地を造るから来ないか」と商工会（現在の流山商工会議所）や、当時の秋元市長や斉藤助役からもお誘いを受けました。当時、工場が5つあり、場所もそれぞれ異なっていたため搬入などの際に納品ミスが起きるなど管理が大変でした。工業団地で1カ所に工場を統合し、より業績を上げるためのビジネスチャンスと捉えたため、流山工業団地組合ができる前の組織に参加しました。また、当時は住宅の近くに工場があり、周辺に住んでいる方への騒音などへの配慮も必要で、住宅と離れた場所に工業団地ができることは大変なメリットでした。翌年には常磐自動車道の流山インターチェンジも開設され、さらにビジネス環境はよくなりました。

単純に言うと、資金や人を2倍に増やせば、売り上げも2倍になります。しかしそれでは何も変わらない。コストは3割増で売り上げを倍にする、その方法を生み出すことが重要です。その考え方は行政と近いものがあるかもしれません。現在、工業団地の近くには物流センターが次々とできていますが、お互いに活用し合う関係が築けるといいですね。大きな変化はビジネスチャンスにつながる可能性が高いのですから。

プロフィール

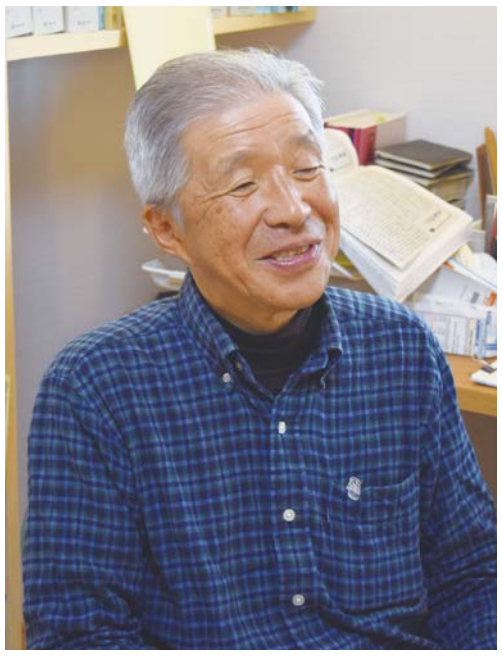
昭和41年、髙橋加工所を創業。平成2年に現在の株式会社マルタカへ。流山工業団地ができた当初の25社のうちの1つ。また、環境にも配慮し、平成22年にグリーンプリンティング認証取得、ISO9001やISO14001も取得している。現在、流山工業団地組合理事長。平成28年春の叙勲で黄綬褒章を受章。

キラリ 輝き続けインタ

意識も意欲も高い流山市民。今回代々流山にお住まいの方の4つの観点

人の生活圏にほど近く、豊かな自然と歴史が共存する利根運河

東葛自然と文化研究所所長　新保 國弘さん



プロフィール

自然と文化と歴史の3つの視点から地域の物語を調査・取材することをライフワークとする。流山市立博物館友の会や利根運河の生態系を守る会などに所属し、著書や研究報告なども多数執筆。現在は、流山市環境審議会会長も務める。

●365日、違う表情が楽しめる自然の宝庫

流山市に移り住んだのは、昭和50年頃。当時は30代初めで仕事も忙しく、流山のことは詳しくありませんでした。仕事も落ち着いてきた頃、流山のことにも関心を持ちたいと始めたのが、利根運河周辺でのジョギング、そして江戸川のカヌーでした。カヌーに乗って江戸川を下っているとき、河岸の樹木から突然大きな羽音を立てて数羽のカルガモが飛び去りました。その迫力に魅せられ、流山初の野鳥の会の創立に関わることになり、その縁で市野谷の森のオオタカ保全活動に加わりました。市野谷の森での活動が一段落した頃、利根運河の自然史と歴史調査を独自に始めました。

利根運河は、周辺に緑の森や湿地が多く、生態系も豊かで野鳥や植物の自然観察が楽しめます。野鳥の観察なら2～3時間で30～50種、植物なら40～50種が観察できるほど豊かです。それは、この地域の自然地形や開削の歴史に由来します。利根運河開削前、この地域には大小の谷津（やつ）が何本もあって、その景観を東深井では「九十九出張（つくもでは）り」と呼んでいた記録があります。この地形を上手に利用して利根運河が掘られ、関東水運の要となったのです。

住宅地の近くにありながら、川・森・低湿地・草地などの多様な自然条件がそろい、生態系豊かな場所は大変珍しく、貴重です。近くに運河駅がありますから、駅を起点に東深井側では、東京理科大学理窓公園を散策する右岸コースと、東深井近隣公園・森の図書館を経由し、柏大橋を渡って戻ってくる左岸コースがおすすめです。西深井側では、窪田酒造や運河大師を通り運河河口公園を回って戻る右岸コースも良いですが、料亭新川の脇から西深井の小道を、石造物などを訪ね歩く左岸コースも魅力的です。

利根運河の自然や生物は、毎日違う表情を見せ、四季折々の野鳥や植物、風景が楽しめます。また、利根運河の歴史も未知の部分がたくさんあり、調査テーマは無尽です。

これからは、自然と歴史を同時に楽しむイベントが行われるといいですね。それが自然環境や生態系の保全、そして歴史調査の発展、東京から人を呼び込むツーリズムとしての効果も生まれると思います。

「眺望の丘」から運河を越えて理窓公園を望む

代々流山に在住、ファインダー越しに街を見続ける

鏑木 忠良さん

プロフィール

現在の八木北小学校の起源となった「鏑木小学校」を開いた、鏑木平馬・佐内を祖先に持つ。新聞記者を経て、平成15年まで八木郵便局長。翌年、法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員として平成28年まで12年間地域に貢献。

●他の都市を見ている立場から、注目される立場に

子どもの頃、私が住んでいる地域は流山町に合併する前の八木村でした。当時、美田団地となる場所は田んぼで、大堀川の辺りは松林だったことを覚えています。戦後間もない頃は中学校を越境入学する人も多く、私も初石駅まで舗装されていない道を自転車で走り、松戸まで通ったものでした。高校や大学は都内に通い、都内で記者の仕事に就きました。市制施行当時は地元を離れていましたが、常に流山のことは気にしていて、ドーナツ化現象による影響をそれほど受けず、人口がゆるやかに伸びているな、と故郷のことを色々と調べていました。

流山市に戻ってきたのは昭和54年頃。八木郵便局の局長としてでした。しばらく地元を離れていたため、「市民」になるために色々な方に流山のことを教えてもらったものです。郵便局は地域密着の仕事。地域に協力することが重要と考え、市民の方が郵便局に来やすいよう、現在の八木郵便局に建て替えたりしました。その間、一番の変化は交通と人の流れです。柏に住宅ができたこともあり、地元の人だけでなく、ここを通過する人も郵便局を利用するようになりました。そのため、局員を増員したり駐車場を増台したり、ATMを入れたりと、その対応に追われたのを覚えています。また、お客様の対応も個人中心から企業が増え、例えば年賀状の注文も企業で取りまとめて発注されると、売り切れどころか在庫では足りない状況になったこともありました。

前職の影響もあって写真を撮り続けていますが、印象的だったのは、市民まつりでの武者行列ですね。風景の撮影より人が生き生きとしている場面を撮るのが好きで、最近では、市内でジャズイベントが多数開催されるようになり、よく撮影しています。また、流山おおたかの森駅も絶好の撮影ポイント。特に夕焼け時に光が重なった時は、なんとも言えない明るい未来を感じさせる印象を受けます。

都内でのポスター広告の掲出や東京オリンピックの関係で、いまや流山市は他の都市から注目される存在になりました。今後、外国の方が増えれば、流山市が日本の印象を決めることもあるかもしれません。これからは、そのような意識を人も街も持たなくてはならないと思います。これからも、人々が交流する写真を撮り続けられればと、楽しみにしています。

市制施行50周年記念

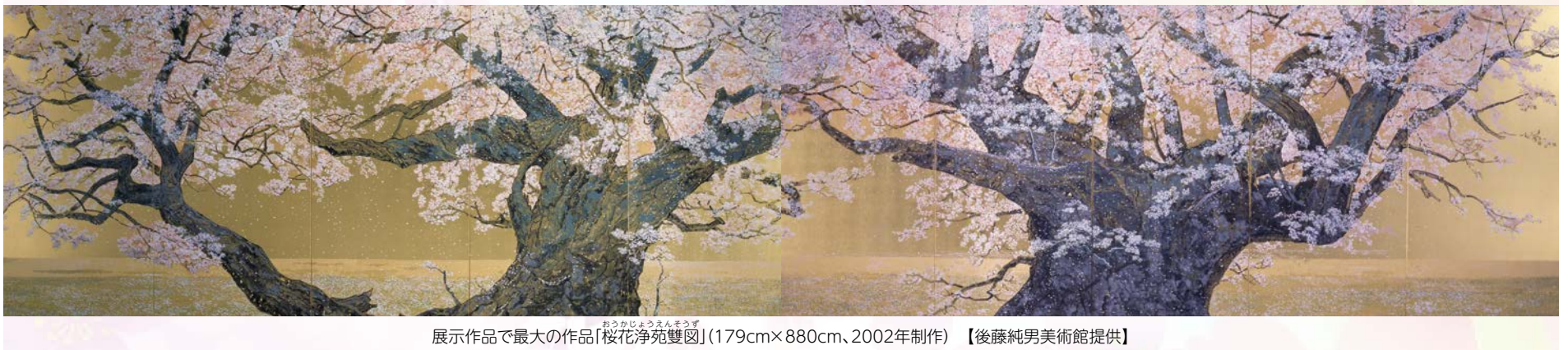
後藤純男回顧展を開催

貴重な作品を間近で見る絶好の機会

流山市初の名誉市民・日本画家の後藤純男氏（平成28年10月18日逝去）の回顧展を開催します。「日本の風景」「北海道」「中国」「桜花」「古都」「日本画と書」の6つのテーマ別に絵画を展示します。また、生前の後藤氏と親交の深かった医師・日野原重明さんの書も展示します。繊細で荘厳な後藤氏の名作32点をぜひ、ご覧ください。なお、今号では作品をカラーで掲載していますが、本来の色彩などは会場でお楽しみください。

日1月22日㈰～2月21日㈫9時～21時（2月15日は休館）
所生涯学習センター（流山エルズ）

▷**チケット代**＝前売400円、期間中500円、団体（5人以上）および高校生400円。中学生以下の方、障害者手帳をお持ちの方（介助者1人まで）は無料※高校生の方は学生証をお持ちください。
▷**チケット販売**＝文化会館、各公民館、南流山センター、おおたかの森センター、生涯学習センター（流山エルズ）、博物館、森の図書館、e＋（イープラス）
問生涯学習課☎7150－6106
ID 31858



展示作品で最大の作品「桜花浄苑雙図（おうかじょうえんそうず）」（179cm×880cm、2002年制作）【後藤純男美術館提供】

企画展

「流山市50年の歩み」

半世紀に及ぶ流山市の歩みを、資料や写真で振り返ります。また、市内の中学生が「発見 われらの流山」をテーマに描いた絵や、流山市発祥の軽スポーツ「ヘルスバレーボール」のボールなどを展示しています。

日開催中～2月19日㈰9時30分～17時
※月曜休館（1月9日は開館。1月1日～4日・10日は休館）

ギャラリートークを開催
企画展担当の学芸員が、展示品の解説をします。
日1月22日㈰①11時から ②14時から 申不要

【共通事項】
所博物館 費無料
問博物館☎7159－3434 ID 31971

祝・流山市50周年記念「50」展

「50」にまつわる本などを展示

さまざまな年代の図書館職員が薦める50冊や、50年間読みつがれてきた児童書、50年前の広報ながれやまなども展示しています。

日開催中～2月19日㈰9時30分～17時
※月曜休館（1月9日は開館。1月1日～4日・10日・31日は休館。2月10日～17日の蔵書点検期間も休館）
所中央図書館 費無料
問中央図書館☎7159－4646 ID 32194

市指定無形民俗文化財の伝統行事

見学は地元の方の迷惑にならないよう、マナーを守りましょう。

◆◇◆ ヂンガラ餅（もち）行事 ◆◇◆

裸の男衆が餅を奪い合い、餅の割れ具合によりその年の農作物の作柄を占います。

日1月8日㈰13時～15時（予定）
所三輪茂侶神社（三輪野山5）

◆◇◆ 鰭ケ崎おびしゃ行事 ◆◇◆

米や野菜を奉納して、五穀豊穣や家内安全を祈願する行事です。1年の当番の7人が七福神に扮（ふん）し、赤鬼・青鬼の的を紅白の弓矢で射抜く「的撃ち」が最大の見どころです。

夕方に行われる直会（なおらい）では、市指定無形文化財の「流山の祭囃子（まつりばやし）、神楽等」の保持団体である赤城保存会による獅子舞や神楽が奉納されます。

日1月20日㈮15時～17時（予定）
所雷神社（鰭ケ崎）